

● 歯科健診実施結果の概要

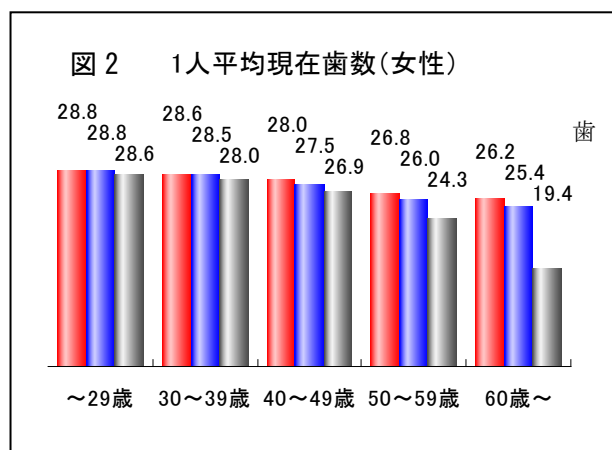
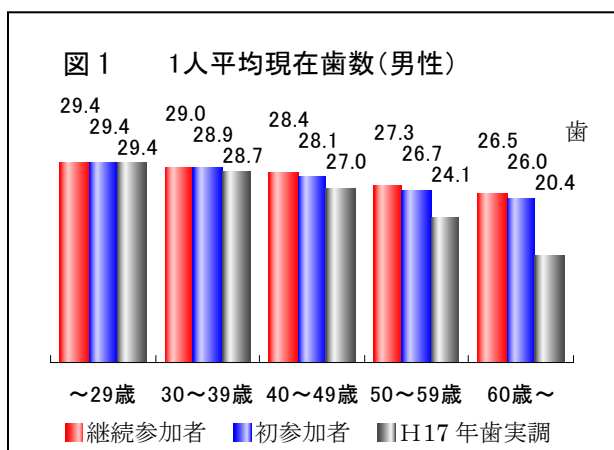
1. 参加者について

平成 21 年度に「歯科健診」を実施した、39 健康保険組合等、331 事業所において参加された被保険者の口腔保健状況をまとめ、継続実施の効果について主な項目を掲載します。

2. 歯の状態

1) 現在歯数の状況 (図 1、2) は、当協会の「歯の健康相談」を継続して歯科保健指導を受けている者 (以下、継続参加者) と、初めて歯科保健指導を受けた者 (以下、初参加者) および厚生労働省調査 H17 歯科疾患実態調査 (以下、歯実調) を比較したものです。

20~30 歳代はどのグループも 28 歯以上ありますが、50 歳代以降は継続参加者に多くあり、次に初参加者、歯実調の順になっています。



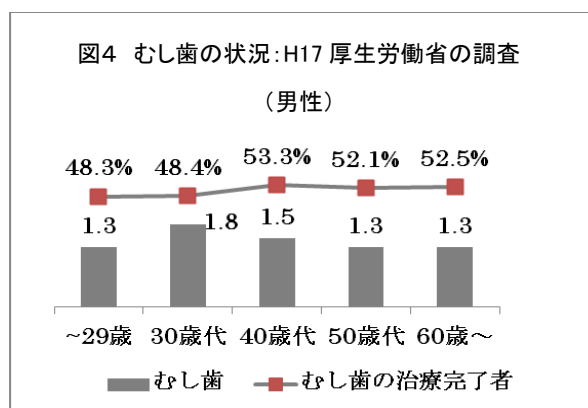
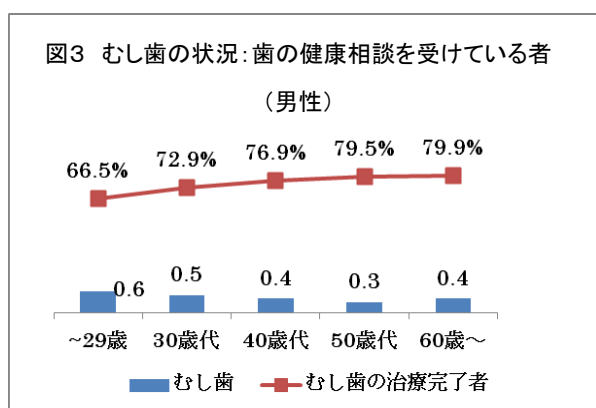
※親知らず(第3大臼歯)を除いた現在歯数です。

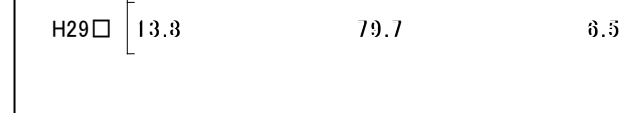
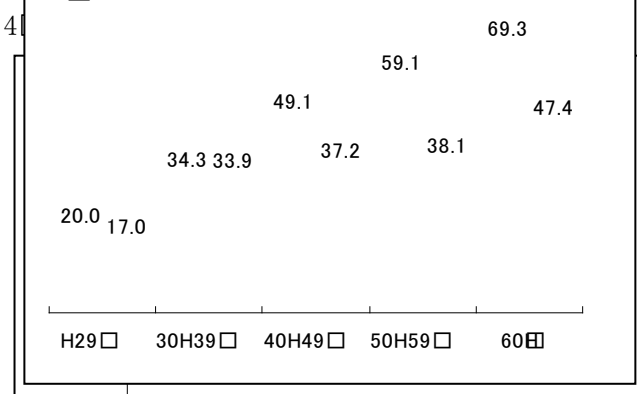
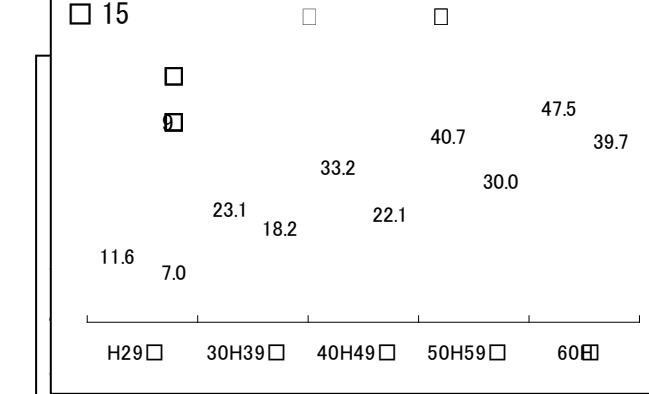
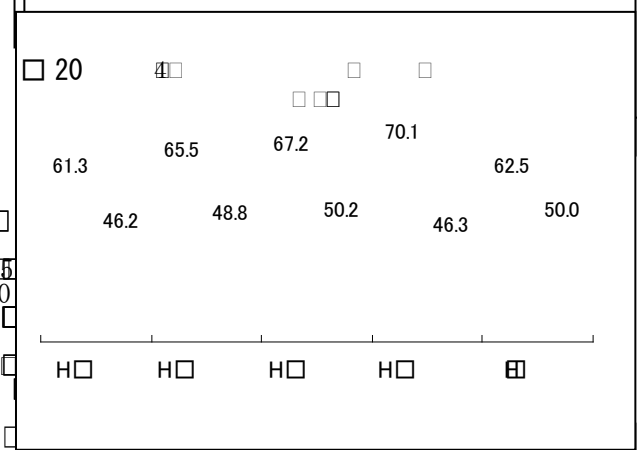
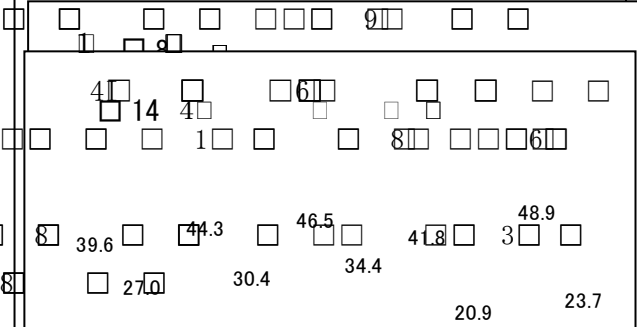
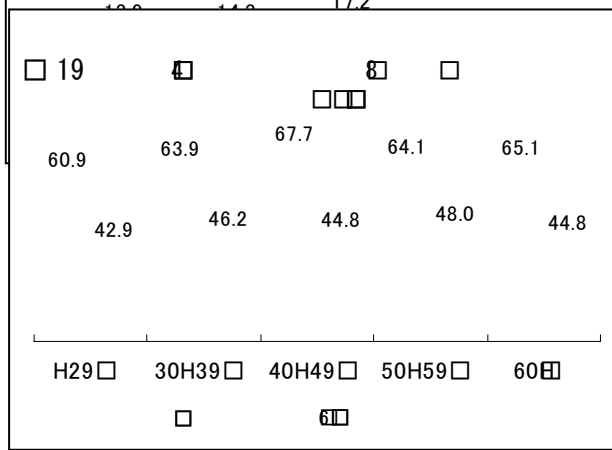
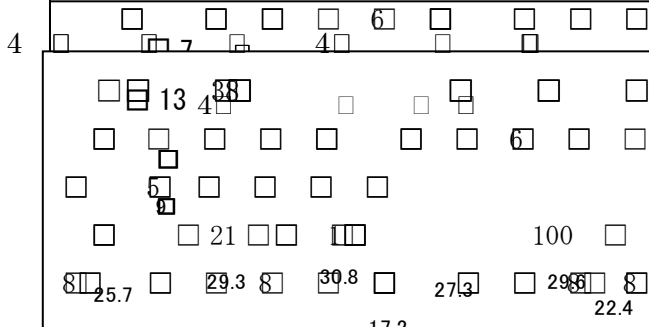
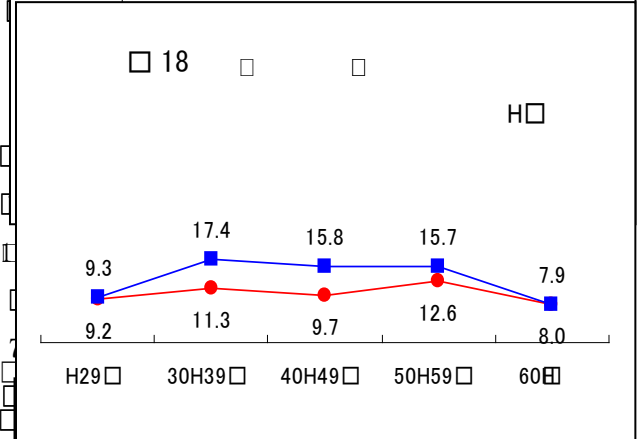
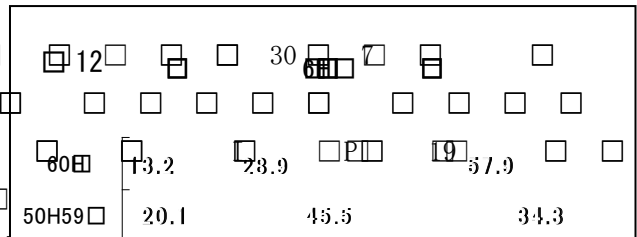
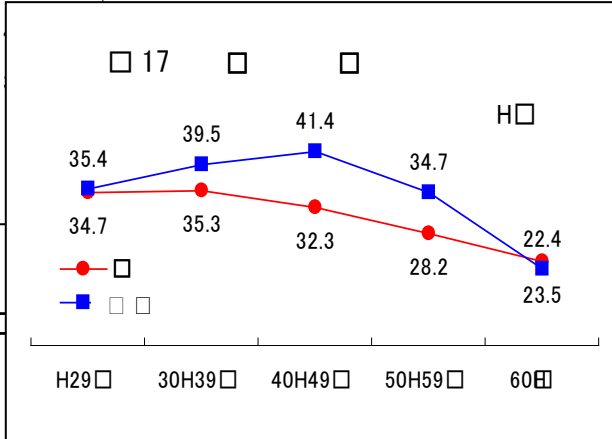
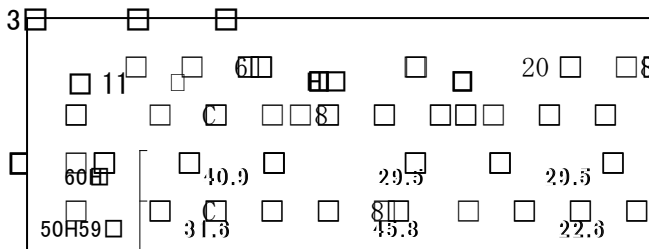
2) むし歯の状況 (図 3、4) は、男性の継続参加者と H17 歯実調 (厚生労働省調査) の比較です。

むし歯では、継続参加者は 0.3~0.6 歯、歯実調は 1.3~1.8 歯、治療完了者では、継続参加者は 66.5%~84.8%、歯実調は 48.3%~53.3% であり、継続参加者においてよい結果でした。

また、図 5、6 は、女性の継続参加者と H17 歯実調 (厚生労働省調査) の比較です。

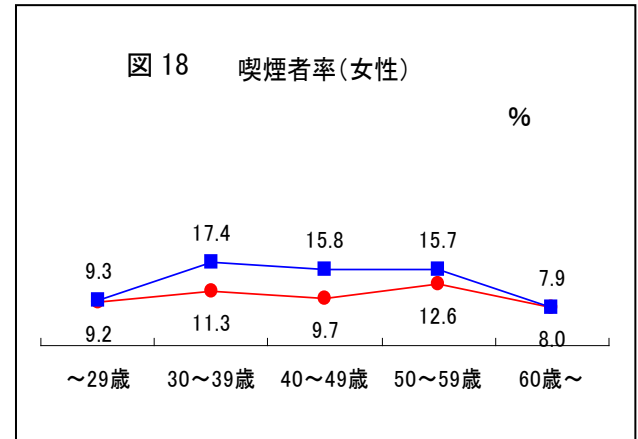
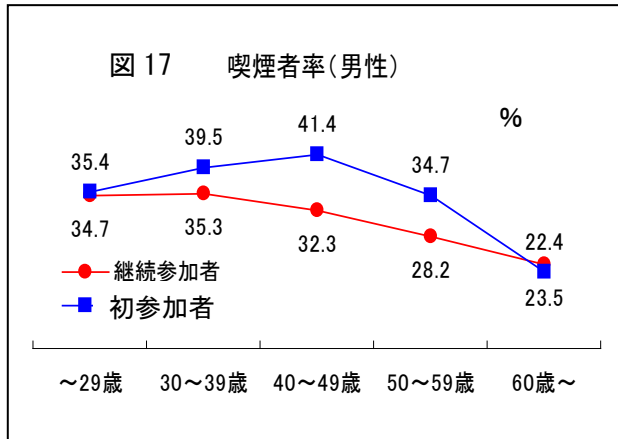
女性においても男性の結果と同様に、むし歯の本数および治療完了者は、継続参加者においてよい結果でした。





5. 喫煙者率の状況

継続参加者と初参加者の喫煙率は20歳代においてほぼ同率ですが、30歳代以降から継続参加者の喫煙率が低くなっています。定期的な保健指導やプロフェッショナルクリーニングを受けることや、お口のセルフチェックをする習慣が、歯・歯肉の健康や口元の美しさに対する意識が高まり、禁煙に結びつくのではないかと考えられます。



6. 「タバコが歯周病の進行に影響していることを知っている」知識の普及について

タバコによる全身への影響の一つとして、歯周病を進行させるリスクがあります。継続参加者は、歯科保健指導の中で情報提供があるため6割以上の方が知識として知っていますが、初参加者では、5割以下でした。

健康日本21ではこの知識の普及率100%を目標にしていますので、今後も継続して、全身の健康影響、副流煙の問題等の情報提供をしていきたいと思えます。

